

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その17

文：樽井 せいいち 清市さん

坂内利三郎と黒沢鉾山群の物語

坂内利三郎は、元禄3年（1690）9月、金山町玉梨の坂内家五代の二男として生まれ、家が貧しいため、滝谷（三島町）の庄屋、山ノ内吉衛門宅に奉公に行った。やがて18歳で年期があけると、横田鉾山で働き、横田城主山ノ内氏勝とのつながりを持った。そして24歳のときに黒沢（鈍子岩鉾山）で働き、黒沢一帯の鉾山を支配して会津藩の財政確立に大きな貢献をしたという。

坂内利三郎の遺書の中から、利三郎の事績を年譜にまとめると次のとおりである。享保6年（1721）、坂内利三郎、兄新五衛門と黒沢鈍子岩鉾山で働き始め、同11年（1726）、利三郎兄弟は会津藩、江戸屋敷に赴き金山奉行・長坂平左衛門に願って銅板10万3,500枚、1両につき銅板8貫200匁を請け負い、金子100両を受け取った。同12年（1727）、利三郎は会津へ下り、金山御役所より金子50両と米150俵を受け取り日向倉鉾山を開発。同13年（1728）、利三郎、姥沢・日向倉鉾山に江戸職人多数を呼び寄せ、1カ月で釜数15（釜床屋は鈍子岩の西に拵えた）、毎月600貫余の銅を吹きたてる。同14年（1729）、利三郎、銅板10万3,500枚を会津藩に納め代金1,150両となる。黒沢の鉾山群は昭和21年10月に閉山した鈍子岩鉾山を最後に全て閉山となった。利三郎は鉾山の成功を記し、観音像を2体作り、1体を本家菩提寺の玉梨の常楽寺に、もう1体を黒沢坂内観音堂に納めた。山ノ内氏勝の墓も同じ場所に移すも、黒沢分は昭和31年の水害でともに流失した。坂内家の隆盛を物語る異聞として民謡「会津磐梯山」の歌詞の「会津磐梯山は宝の山よ」は「会津坂内さんは宝の山よ」が元歌という人もいるが定かではない。



↑黒沢鉾山群の坑道入り口跡



↑鈍子岩鉾山選鉾場跡



今月の表紙

今月の表紙は、8月14日に行われた「魚つかみ」から。当日は、会場となった熊沢自治区内の鬼光頭川に楽しそうな歓声が響きました。

※12ページに関連記事

編集後記

町役場の庁舎が移転して1カ月余。皆さんはもう訪れましたか？1階には町民ホールもありますので、気軽に利用していただければと思います。企画情報課は事務室が広くなり、旧庁舎よりも快適な職場環境となりました。でも、少し気になることが……。それは、小学校を改修して造ったということ。学校といえば怪談がつきもの。ただでさえ慣れない建物なのに、この先入観のせいで、遅くまで残っていると後ろが気になって気になって。そのうち慣れるとは思いますが、しばらくはびくびくしそうです。お化けは出ません 長谷川祐一